

原子力安全・保安院指示文書に基づくハフニウム板型制御棒の全挿入操作の実施について

平成 18 年 2 月 7 日

当社は、2月3日の原子力安全・保安院からの指示(※1)を受け、定格熱出力一定運転中の浜岡原子力発電所3号機(定格電気出力 110万キロワット)ならびに4号機(同113.7万キロワット)について、現在使用中のハフニウム板型制御棒のうち、3号機で9本(全ハフニウム板型制御棒13本)、4号機で21本(同25本)を全挿入することとしました。

[\(平成18年2月3日お知らせ済み\)](#)

その後、準備が整ったことから、2月6日から2月7日にかけて、当該制御棒の全挿入操作を実施しました。

その結果、予定通り、3号機は定格熱出力一定運転に復帰し、4号機は電気出力が約70万キロワット程度まで低下しました。

今回の措置により、3号機、4号機ともに、次回定期点検開始までの間では今回の指示に基づく追加の制御棒の全挿入はない見込みです。

本日、これらの実施結果につきまして国に報告します。

なお、今回の全挿入操作中においても、当該制御棒は正常に動作しました。

※1 熱中性子照射量が $4.0 \times 10^{21} \text{ n/cm}^2$ を超えたハフニウム板型制御棒は、原子炉運転中は全挿入位置とすること。また、運転中に上記照射量を超えるものにあつては、同照射量に達した時点で全挿入位置とすること。

以上